

■ B F 連盟戦記 4 不知火舞編 体験版

——バトルファック！ それは男女が互いのプライドを懸けて性の技を繰り広げ合う競技である！
そして『B F 連盟』はバトルファックを普及するため日夜ハッスルする組織である！
今日も連盟の普及活動として、新たな犠牲者が招かれた！

ゲストの名は不知火舞。
以前別のB F 系組織で大会荒らしとして活躍した彼女に挑戦状を送り、
連盟の手で現実の厳しさを教えてやるのだ！

「よっ、にっぽんいち〜♪」

リング上に立ち、決め台詞を言う舞に喝采と罵倒が浴びせられる。
彼女の美貌、性的な意味も含めた強さはもちろん好まれるところだが、
淫闘で強すぎるのは“男勝ち”を好むB F 連盟ファンにとって鼻持ちならないもの。
彼女を何とか打ち負かそうと、敬意と嫌悪を込めたハンデマッチが用意されていた。

『今回の試合形式はなんと“百人組手”！
舞の圧倒的な実力が本物であることを、この場で証明してもらおうぞ——！』

ルールはまさかの百人組手……一対一の勝ち抜き戦を、舞一人と連盟選手百人で行うというものだ。
男のプライドも何もないが、むしろ舞が相手となればこうでもしないと試合が成立しない。
もちろん舞も了承済であり、百人相手にアウェーの場でありながら敗北など微塵も考えていない。

「百人揃わないと戦えないなんて度胸ないわねえ♪ 全員ヤっつけてやるから、覚悟なさい♪」

『舞、超ハンデを前に余裕の勝利宣言！ 果たして本当に勝ってしまうのか——？』

（百人相手なんて久々だけど……まあ坊やたちが相手なら大丈夫でしょ。
こんなことする悪い子たちは、キツイお灸を据えてやらないとね……♪）

◆今回のバトルファックルール

対戦形式……

『エンドレス』 + 『勝ち抜き戦』

制限時間なし、精力が尽きる or 失神でKOされる、もしくは降参で決着がつくまでの真剣勝負。
連盟側が敗北すれば次の選手と交代。それを繰り返し、
連盟の用意した百名の男性選手が全員敗北すれば舞の勝利、途中で舞が敗北すれば連盟の勝利となる。
ただし連盟側はアマチュア選手のみ。

『特殊コスチューム』

舞が膣内射精された場合、パフォーマンス&ペナルティとして連盟の用意したコスチュームを着用する。

基本ルール……

B F 連盟のリング上、男女それぞれ一人ずつによる一対一の対戦。

絶頂や精力が残っているかはリングや会場の快感センサーや審判の判断で判定される。ただし選手の状態によっては続行可能の確認や意思表示が必要。

敗北条件……

精力が尽きる、ダウンから10カウント（ただし連盟側のみ）、失神、降参、ルール違反など。

他、審判が続行不能と判断した場合。

また、ダウンしても追撃が行われた場合は基本的に10カウントしない。

一度絶頂しても精力があれば続行可能。

禁止行為……

凶器・ドーピングの使用。

性交、快感を与える目的やそれに類するもの以外の攻撃的行動。

避妊具等の使用については自由。

なお、妊娠をはじめとする、試合中に発生したいかなる事態・被害について、連盟は一切の責任を追わない。

『まず連盟の一人目がリングに上がります。舞はまずはこの選手に勝たねばなりません』

【舞さんはじめまして、よろしくお願いまーす♪】

「あらっお子様の割にご立派なモノ持ってるわねえ……ま、アンディほどじゃないけど」
(……まあ……サイズは本当に立派ね)

恋人がいる手前で舞は強がったが、実際は比較するのも可哀想なほど少年の圧勝。
早くもそそり立ったものは、どう見ても性豪のそれである。
アマチュア選手らしいが、この少年はフィジカル面だけならプロとして通用するものを持っていた。
おそらく百人の中でも最上位の実力者だろう。

(最初に弱らせようって魂胆ね……でも、こんなに勃起して大丈夫?)

実力者で一気に削り、そこからじわじわ甚振るのが連盟の作戦か。
確かに上手くハマればいきなり追い詰められるだろう。
だが逆に、このエース格を完封できれば流れを持ち込める。
舞が嗜虐的な考えをめぐらせて舌舐めずりした時、ゴングと共に試合が始まった。

『試合開始！ さあどう動く……おおっと?!』

たぷっ♥ ぶるんっ♥

「んふ……いいわ、ハンデよ♪ 日本一の身体、好きに責めてみなさい♪」

『これは、まさかの挑発！ 一人目を相手に“受ける”つもりなのか?』

舞はロープにもたれると、右の乳房を持ち上げて胸を、
左脚を上げてふんどし状の下着を見せて秘部をアピール。
あからさまな挑発に再び会場が沸き上がる。

【へえ、ちょっと余裕すぎない? ……なら遠慮なくっ!】

これに興奮と苛立ちを覚えた少年は容赦なくタックル。
お望み通り胸と秘部を責めてやろうとするが、
舞は少年が突っ込んだ隙に足払いの要領で倒し、あっさりとマウントを取った。

【えっ?!】

がぼっ♥

「あら、こんなに簡単に騙されるなんて、やっぱり お子様ね♪」

『速い! 舞、流石の体捌き! あっという間にマウントを取り、胸をペニスに押し付ける——!』

【うっ!】

たぷんっ♥ ぶるんっ♥ ぶるるっ♥ たばあんっ♥

「ガッチガチのおちんちん♪ 私に興奮してくれてるのね♪ 嬉しいわあ♪

早速一発目の濃ゆういの、おっぱいマンコをちょうだいいっ♪」

【くそ、こんな簡単に……ああっ、やっぱスゴっ……!】

マウントパイズリ責めで舞の胸が派手に上下し、少年のペニスを扱き上げる。
体調によるものか、興奮しすぎたか、少年はエースらしからぬ発情ぶり。
やはり絶世の美貌と熟練のテクニックを持つ舞が相手では、アマチュアではこうなるのも無理はない。
このままではすぐに絶頂するだろう。だが少年も意地を見せ、
腰を跳ねさせて爆乳を浮かせると乳首責めで反撃に出る。

【こ、の……! このまま終われるかっ!】

ぎゅむっ♥

「はうっ♥」

『せめてもの抵抗に乳首責め！ これは効いているのか、それとも喘ぎもパフォーマンスか？』

間合いが近すぎるため乳首責めの威力は低い。
が、嬌声は演技ではなく、舞は大きな性感ダメージで声を出していた。

「っ♥ やるじゃない♥ でも、その程度じゃ日本一のおっぱいには……」

ぎゅむんっ♥ りゅうううっ♥

「あひっ♥♥ ち、乳搾りはダメえっ♥♥」

『大きな嬌声！ これは効いている?! あの“日本乳”を搾られて舞にもダメージが入っている——!』

“日本乳”などとも称される、大きさと柔らかさと形、
どれをとっても完璧な舞の爆乳が搾られ、本気の喘ぎを出させられる。
舞は性戯の技術・威力も高いが、経験豊富な分、肉体の開発も進んでしまっている。
特に搾乳するような責めは最も苦手とするところで、胸を搾られると力が入らないのだ。

(やっぱり、研究されてる♥ 早く決めないと不味いわ……♥)

舞は有名で対戦記録も多い分、対策もされやすい。
少年は勝ち負けよりも弱点を責めることを考えた立ち回りを選んでいた。
ただし、舞も忍の諜報力で少年たちのことも調べてある。
この少年は実力はあるが、一旦責められると脆い。
それを知る舞は乳首搾りに堪え、ゴリ押しで責め切ろうとする。

「んふいいいっ♥♥ き、効かないわ、そんな雑な、手つきいんっ♥♥」

(乳首が、もう本気勃ちしてる♥♥ この子♥♥ この間合いでの搾乳責め……仕上げてきてるっ♥♥)

舞も対策への対策はしてあるが、耐性以上に快感ダメージが大きい。
乳搾り責めが苦手と知っていた少年はこの事態も想定していたのか、
敗北覚悟で舞にダメージを与える気なのだ。

『パイズリ対乳搾り！ 粘り勝つのはどちらなのか?!』

たぶっ♥ どぶるんっ♥ たぱんったぱんったぱんったぱんっ♥

「何我慢してるのよ♥♥ 私の『日本乳』で『乳内射精』したら♥♥ すっごく気持ち良いわよお♥♥」

【それ、舞さんも同じでしょ？ フル勃起乳首シコリながら
開発されまくった爆乳マンコにブチこんだらどうなるかな?!】

しこしこしこしこっ♥ ぎちっ♥ りゅうううっ♥

「んほおおっ♥♥ 言うじゃない……や、やってみなさいよ♥♥

おっぱい大好きなお子様ちんぽっ♥♥ 童貞みたいに早漏乳内射精しちゃいなさあいつ♥♥」

どぶうんっ♥♥

【うっ……出るっ！ 出すよ！ 爆乳マンコで孕めえっ!】

ドプッ♥♥ ビュブッ♥♥ ドプウウツツ♥♥

「あ♥♥♥ 熱ううううううっ♥♥♥ おっぱいまんこの中に♥♥♥

お子様ちんぽ乳内射精出てるうううっ♥♥♥

ダメっ♥♥♥ 出しながら♥♥♥ 搾られたらああっ♥♥♥♥♥♥」

ブビュウツ♥♥ プシヤアアアツ♥♥

「んっっほおおおおおおおっ♥♥♥ おっぱい出るっ♥♥♥ 乳内射精イクツ♥♥♥

お乳しぼられるの気持ち良すぎるのおっ♥♥♥

フル勃起乳首っ♥♥♥ 乳内射精アクメで噴乳しちゃうっ♥♥♥

お♥♥♥ おおおおおおおお~~~~~っっ♥♥♥」

『激しいパイズリで乳内射精——！ 先に達したのはペニス、しかし舞も射精の感触で絶頂——！
ほぼ同時絶頂だが、これは続行可能か?!』

(こんなに熱い精液出すなんて……♥♥ 完全に舐めてたわ……♥♥ ここまでされるなんて……っ♥♥)

「はっ……♥♥ はへ……♥♥ んひいいい……♥♥ と……当然っ♥♥ 続けるわよおっ♥♥」

【こっちもいけるよ】

『両者続行可能！ 試合再開——！』

前戯相当の責めで想像以上の快楽に絶頂してしまったが、流石にこれで終わる舞ではない。

試合が再開するが……射精に対し仰け反ってしまったため少年を逃がしてしまい、

また互いにスタンド状態に戻っている。

舞は弱点を責められての絶頂で力が抜けており、体捌きではほぼ互角になってしまう。

少年に貫手で胸を狙われ、避けられずに咄嗟にガードするが……

その隙に押し倒され、逆にマウントされてしまう。

「くっ……あぁっ！」

『今度は舞がマウントを取られた！ 更にマウントでなお胸を責め続ける！』

【動きスゴい鈍ってるね……おっぱい弱すぎでしょ！】

ずぷっ♥ もみ♥ ぎゅむうっ♥

「んあぁっ♥♥ い、いつまでも、お子様の一つ覚えが、通用すると、おっ♥♥ し、しつこすぎよおっ♥♥」

【あの舞さんに挿れるんだ、丹念にやんないとね！ まあ、マンコはもう充分だろうけど♪】

押し倒しても胸が責め続けられ、快感で脚が跳ねる。

胸だけでもたっぷりと発情しており 既に濡れそぼって下着が秘部に食い込んでいる。

少年は乳首責めの感覚が途切れないよう、強く乳首を抓ると素早く下着に手をかける。

ズラされて露出させた秘部を搔き回し、厭らしい粘音が響いた。

【やっぱり、もうグショグショ♪】

くちゅ♥ ぐちゅっ♥

「あっ♥♥ んんうっ♥♥」

『乳首責め中心にしつつ性器も責める！ もう舞のヴァギナは準備万端か？』

「んっんんっ♥♥ 乳首なのか、おまんこなのかっ♥♥ ハッキリなさい焦れたいわねえっ♥♥」

快感を堪えて少年の両手を掴み、挿入を誘う。

巨根を喰らうのもリスクイだが、舞にとっては挿入の方が胸責めより幾分かマシだ。

【もう挿れるの？ いいんだね？】

「おっぱいだけじゃ……イカせることはできても、勝つことはできないわよ♥♥

ファックしてこそ……淫闘、でしょ♥♥」

少年のBF選手としての意識を挑発する。

やはりエース格だけあり、思わず生唾を飲むほどの絶倫巨根。

それが挿し込まれるのを感じながら、舞は自分に言い聞かせるように強気な顔を見せた。

【じゃーご要望通り、ハメるよー！】

『ここで挿入宣言！ 正常位でペニスがヴァギナに押し付けられる——！』

つぶ♥ ずる……っ♥

「き……♥♥ 来なさい♥♥ お子様ちんぽで……♥♥」

(絶対……一回はイっちゃう♥♥ 呑まれないようにしないと♥♥)

ぬちゅううっ♥

「日本一のおまんこ♥♥ 精々……愉ませなさいっ♥♥」

ずぶんっ♥

「イツツ♥♥♥ ん♥♥♥ んんうっ♥♥♥ んんんふうう——っ♥♥♥」

『根元まで一気に挿入——！ ここで二度目の絶頂、舞は声を殺し切れていない——！』

(やっぱり……スゴい♥♥♥ 久々の♥♥ でかちんぽお……♥♥♥)

【大口叩いとして、挿れただけでイッたんだ？】

びく♥ ひくんっ♥

「い、イッてなんか♥♥ 何違いしてるのよ♥♥ あんなの、連盟側の誤審に決まってるじゃない♥♥
いい線いってるけど♥♥ こんなお子様ちゃんぽに♥♥ 挿れられただけでイッたり♥♥」

ずばあんっ♥

「んっほっっ♥♥♥ でかちゃんぽイクううっ♥♥♥」

(ダメ♥♥ 淫語が♥♥ 抑えられない——♥♥♥♥)

【ははっ、もう自分で言ってるけど？ 自信マンマンに挿入誘っという恥ずかしくないの？】

「くうっ♥♥ う、うるさいわねっ♥♥ そっちもイキそうになってるクセにっ♥♥」

輝かしい戦績の分だけ開発された影響で、舞は犯されると淫語が出る悪癖がついてしまっている。
無様さを嗤われるが、舞も言い返す。
あながち負け惜しみというわけでもなく、少年も二度目の絶頂が近付いている。

【っ……！】

ぱん……ぐちゅう……っ♥

「格下相手ばかりで♥♥ 同格と責め合いの経験ないんでしょ♥♥ もうおちんちんへバってるわよっ♥♥」

少年に乗られているが、脚を絡ませ、両手も掴んで引っ張ることでペースを調整。
逆に搾り取る勢いで腰を使い、敢えてノリノリで淫語も使って攻勢に出た。

『マウントを取られているが、これは舞の方が責めているか？

腰も胸も激しく揺れる！ 今回初の膣内射精勝負、どちらが制するのか——？！』

【うは、スゴっ！ 流石……うううっ！】

ぱんっ♥ ずぶんっ♥ ぶるんっ♥ じゅばあんっ♥♥

「おっ♥♥ おほっ♥♥ ちゃんぽっ♥♥ でかちゃんぽおおんっ♥♥ はっへ♥♥ は、早く♥♥ 早く出しなさい♥♥
おっぱいまんこに出しまくって、もう後がない息切れちゃんぽっ♥♥

日本一のおまんこにっ……♥♥ 思いっきり果てちゃいなさあいつ♥♥」

【だ、出すよ！ 孕んでイケえっ！】

ごづんっ♥

「んぎひいいいっ♥♥♥」

(子宮っ♥♥♥ 潰され——♥♥♥)

ドプッ♥♥ ドクウッ♥♥ ビュルルルルルッ♥♥

ドブドブドブドブドプッ♥♥ ゴビュビュビュウウウウウッ♥♥

「んんおおっっほおおおおおおおおおおおおおおおっ♥♥♥

出てるっ♥♥♥ 子宮♥♥♥ 潰しながらなんてええええっ♥♥♥

こんなのっ無理っ♥♥♥ いっつく♥♥♥ イグううううううううっ♥♥♥

乳搾りアクメでとろとろになったおまんこおっ♥♥♥

あっつい精子っ♥♥♥ ドブドプされて♥♥♥

いぐうううう——っ♥♥♥ おほおお——っ♥♥♥

日本一いひいいいいい——っ♥♥♥」

『膣内射精同時絶頂——！ 両者共に激しくイカせ合った——！

一人目からの激しい戦い！ もしやここで百人組手が決着か——？！』

プロ選手と比べて遜色のない強く激しい射精に、舞は思い切り絶頂に昇る。
誘惑や挑発ではない本気の淫語絶頂に、観客たちが歓喜した。

【はは、これで……勝負あった、かな？】

「っ……♥♥♥ あ♥♥♥ ああ……ん♥♥♥」

少年は勃起できないが、舞は倒れたまま。

もしここで判定が下されたなら少年の勝ちだが……

「……ふふ……♥♥ やっぱり……♥♥ お子様、ね……っ♥♥」

【っ?! ウソっ?】

「……っ……経験豊富って、言ったでしょ……♥♥ まだまだイケるわよ……♥♥」

開発されている分、この程度の絶頂も体験済み。

舞はロープにもたれつつ何とか立ち上がり、続行可能であることを示した。

対し、少年は立ってこそいるが、自慢の巨根は萎びれている。

『連盟側は続行不能! ということは……舞の勝利! まずは舞、一人抜き——!』

苦戦したが、一人目がエース格であればここからは多少ラクになるはず。

インターバルで精液処理し、呼吸を整える舞。

だがそこに、パフォーマンス&ペナルティとして用意されたアレンジコスチュームが渡される。

◆コスチュームチェンジ@ヒロインズ!

「何よこれ……牛?!」

連盟が用意したBF用コスチュームは、乳牛をイメージしたビキニとカチューシャ。

最上級の爆乳を持つ舞には確かにぴったりの衣装だが、

ゆえに角カチューシャまで用意される牝牛扱いはもはや屈辱的である。

『舞は膣内射精されたペナルティとして、このコスチュームに着替えなければならないぞ!』

(生着替えて愉しもうってことね。残念だけど……)

得意の忍術を使い、一瞬で乳牛コスに着替える。

屈辱と羞恥で朱くなりながらもポーズを決めるが……

「不知火流、早着替え……って、これっ?!」

(何か仕込まれ——)

「んふおおおっ♥♥ こ、これっ♥♥ 媚薬っ?!♥♥

ど、どれだけキツイのを——っん♥♥ んくっふうううっ♥♥」

『実はそのコスには濃縮させた媚薬がたっぷり塗り込んであるぞ!』

さあ後がつかえている、二人目の試合が始まるぞ準備はいいか——?』

【よろしくー♪ うわ、やっぱり乳牛コス超似合うね♪ じゃいくよー!】

「……褒めてくれてどうも……♥♥」

(こ、この状態は♥♥ いくらなんでも……っ♥♥)

『第二戦、開始っ!』

◆2人目

(あそこも……乳首も♥♥ こすれて♥♥ 動けないっ♥♥)

【隙だらけだよっ!】

がしいっ♥

「あああああっ♥♥」

『流石の舞も動きが鈍っている! 前から揉まれていきなり感じてしまった!』

「この、離れなさい……あっ♥♥」